

第1章 平成元年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口・宇部・光の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。各構内において、埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺における既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合等を勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、立会・試掘・事前の三種の調査方法によって調査を実施している。

平成元年度は事前調査2件、試掘調査1件、立会調査16件の計19件の調査を実施した。

Tab. 1 平成元年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	調査面積(m ²)	調査期間	挿図番号
事前	水銀灯新嘗	吉田構内	K・L-15	4	6月10日～6月12日	Fig.84-106
	教育学部附属幼稚園・山口小学校污水排水管布設	亀山構内		260	8月21日～10月22日	Fig.87-9
試掘	医学部附属病院MRI棟新嘗	小串構内		45	6月26日～7月6日	Fig.85-19
立会	樋野寮ボイラー設備改修	吉田構内	O・P-19・20	25	4月3日	Fig.84-107
	野球場防球ネット新嘗	吉田構内	I・J・K-21 H・I・K-22	7	4月3・4日	Fig.84-108
	防火水槽配管布設	吉田構内	K-21・22	15	4月4・5日	Fig.84-109
	吉田寮ボイラー設備改修	吉田構内	L-8	4	4月6日	Fig.84-110
	体育施設系給水管改修	吉田構内	G・H-16	50	6月19日	Fig.84-111
	大学会館前記念植樹	吉田構内	M-13	6	6月8日	Fig.84-112
	吉田寮ボイラー棟地下貯油槽設備改修	吉田構内	L・M-8	45	10月2・3日	Fig.84-113
	第二武道場排水溝新嘗	吉田構内	G・H-15・16	2	10月9日	Fig.84-114
	案内標識設置	吉田構内	I-14 L-18	0.5	1月4日	Fig.84-115
	本部車庫給水管改修	吉田構内	L-13	6.5	1月10日	Fig.84-116
	大学会館前庭環境整備	吉田構内	L・M・N-14・15	35	3月7日	Fig.84-117
	工学部夜間照明装置および防球ネット設置	常盤構内		2	2月21日	Fig.86-7

平成元年度山口大学構内遺跡調査の概要

立 会	工学部記念植樹	常盤構内		2.5	3月22日	Fig.86 —8
	教育学部附属幼稚園バレーボールコート支柱設置	亀山構内		0.3	11月22日	Fig.87 —10
	教育学部附属幼稚園・山口小学校污水配水管布設	亀山構内		170	1月8日～3月14日	Fig.87 —11
	本部1号職員宿舎 公共下水道切替			1	3月5日	

吉田構内の調査(本部、人文・文教・経済・理・農の各学部、教養部:山口市大字吉田1677-1、教育学部附属養護学校:同吉田3003所在)

事前調査1件、立会調査11件の計12件の調査を実施した。

水銀灯新営に伴う事前調査では、5世紀代の溝・柱穴および遺物包含層を検出した。同時期の竪穴住居跡は、調査地域の北東の丘陵頂部付近に立地する大学会館前庭部および第二学生食堂敷地で十数棟が検出されており、集落の分布範囲がさらに南西に広がっていることを示唆した。遺物包含層は3層存在し、調査地域の北側に隣接する大学会館前庭部分で検出したものと同一層である。各層とも弥生時代から平安時代のものを包含しており、一時期の遺物によって構成されていない。出土遺物のうち、六連式製塩土器は構内遺跡では初例で、8～9世紀における塩の需要・供給関係、流通経路を解明するための基礎資料となった。

立会調査では6件の調査で、遺構もしくは遺物包含層を検出し、遺物が出土した。

吉田構内の北端部で行われた吉田寮ボイラー棟地下貯油槽設備改修工事では、遺物包含層から古墳時代を主とした遺物が出土した。出土遺物のなかには縄文時代にさかのぼるものも含まれており、周辺の丘陵縁辺部に縄文時代から古墳時代にかけての居住地が存在する可能性がある。

構内の南西部で行われた野球場防球ネット新営および防火水槽配管布設工事では、柱穴などの遺構を検出した。調査地域は「遺跡保存地区」の南側に位置しており、「遺跡保存地区」と一連の弥生時代から古墳時代にかけての集落関連遺構が南方の野球場にも広範囲に分布していることが明かとなった。

構内の西部で実施した体育施設系給水管改修、および中央部よりやや北で実施した大学会館前庭環境整備工事に伴う立会調査では溝を検出した。前者は、北東～南西に走行し、幅約4.8mの規模をもつ。遺物は出土しなかったが、埋積土の色調・粒土・組成などから弥生時代から古墳時代のものと考えられる。なお、この溝は関係部局との協議の結果、現地保存されることとなった。後者は、中世のものと思われ、幅約40cmの規模をもち、東～西

平成元年度山口大学構内遺跡調査の概要

に走行する。

構内の北部で行われた本部車庫給水管改修工事では、遺物包含層の客土から弥生土器が若干出土した。

小串構内の調査(医学部、同附属病院、医療技術短期大学部:宇都市大字小串 1144 所在)

構内のほぼ中央部で医学部附属病院 M R I 棟新宮に伴い、試掘調査を実施した。遺構は検出できなかったが、旧水田耕作土以下の二次堆積層から、削器、二次加工のある剝片、細石刃、石核など 12 点が出土した。新宮予定地の北東に隣接する病棟敷地では、先の調査でナイフ形石器、削器、二次加工のある剝片、石核などがまとまって出土しており、剝片剝離技術、石材も共通する要素が多い。

常盤構内の調査(工学部、工業短期大学部:宇都市常盤台 2557、尾山宿舎:同上野中所在)

北西部のグラウンドおよび西端部で 2 件の立会調査を実施した。両調査地点とも造成による構内の削平が著しく、顕著な遺構・遺物は認められなかった。

亀山構内の調査(教育学部附属幼稚園:山口市白石三丁目 1-2、同山口小学校:同三丁目 1-1、同山口中学校:同一丁目 9-1 所在)

幼稚園・山口小学校敷地で事前調査 1 件、立会調査 2 件の計 3 件の調査を実施した。

污水排水管布設に伴う事前調査では、階段状に二段にわたって造成されている小学校敷地の上位面を中心に、今回、はじめてまとまって遺構が検出された。遺構は幼稚園敷地で庄内段階の河川跡、小



Fig. 1 山口大学吉田・亀山両キャンパス位置図

平成元年度山口大学構内遺跡調査の概要

学校敷地で弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡 1 棟、土壙 10 基のほか溝・柱穴などがある。特に、小学校運動場南縁部では、弥生時代中～後期および庄内段階の 2 棟の竪穴住居跡を検出した。先の調査では検出地点のすぐ南西で 5 世紀の竪穴住居跡が検出されているが、検出面には約 50 cm の標高差がある。両遺構の時期差はあまりなく、旧耕作土が残存していることから、この付近で地山が西に下降しているか、階段状にカットされている可能性がある。

遺物包含層は構内の南半部を中心に検出し、低学年棟周辺の谷状の落ち込みから古墳時代を主とした遺物が多量に出土した。

2 件の実施した立会調査のうち、汚水排水管布設工事では柱穴、溝状遺構を検出した。いずれも小学校運動場の東縁で検出したもので、溝状遺構は幅約 5.9m 以上の規模をもち、東一西に走行する。やや時期幅のある遺物が混在して出土したが、主体は弥生時代後期後半～終末のものである。小学校運動場の北西縁では先に、弥生時代終末～古墳時代初頭の溝状遺構が検出されているが、検出地点が離れており、また、流路方向が異なることから一連のものかどうかわからなかった。

なお、亀山構内の北端部に位置する、幼稚園運動場でのバレー・ボールコート支柱設置に伴う立会調査では、顕著な遺構・遺物は認められなかった。

その他構内の調査

山口市水の上町 6-1 に所在する本部職員宿舎において立会調査を実施したが、顕著な遺構・遺物は認められなかった。(河村)



Fig. 2 山口大学小串・常盤両キャンパス位置図

吉田構内全景
(北西から)

